自治的諸活動部会

一人ひとりの自立をめざした学級づくり

I　主題設定の理由

社会生活の激しい変化の中で，子どもの生活様式や生活の意識も大きく変わってきた。多くの問題を抱える現代社会において人々は，自己の利害や損得に関わるものには敏感に反応するが，人とのつながり，思いやりや親切の心となると希薄になってきているように感じる。現代社会においては，競争を乗り切り，自分さえよければよいといった風潮があり，他者を省みない傾向がある。そうした中で，その社会的問題や矛盾が集積する学校においても，「学級崩壊」「いじめ」「不登校」など，さまざまな問題が起きている。

学校での「学び」の基本は，学級集団にある。一人ひとりの子どもが集団の一員として互いに認められ，楽しく生活し，学ぶための空間が確保できるような学級集団づくりが求められる。そしてさらに，自分たちの思いによって自治的な活動を創り出し，そこから学びあえる学習集団にまで高めていく必要があると考える。

そこで，本部会では，一人ひとりが認められる学級づくりをめざして，「一人ひとりの子どもが居心地のよい集団づくり」，「人間関係の絆を強め，人とのつきあい方を学んでいく場面づくり」について研究を進めてきた。今年度も，「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について研究していくこととし，本主題を設定した。

II　研究の内容

1　研究の方法

（1）各個人の取り組みや実践を発表し，研究討議をする。

〈レポートの例〉

特別活動の充実，学級会の進め方，班長指導，朝の会・帰りの会の進め方，係活動，構成的グループエンカウンター，課題解決の手だてなど学年の発達段階や各クラスの実態に応じた「自立をめざした学級づくりの手だて」について。

（2）講師を招き，「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」についての学習会を行う。

（3）授業研究を通して「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について学習を深める。

2　研究の具体的内容

（1）第1回研究会

今年度の研究の方向性の確認（研究テーマ・研究方法について）

（2）第2回研究会

年間計画についての検討・確認

（3）第3回研究会　実践発表①

・低学年部会：飯島先生（後屋敷小），有井先生（塩山南小）の実践発表

・高学年部会：中村先生（山梨小），小石澤先生（大和小）の実践発表

（4）第4回研究会　夏季学習会

・研究授業案検討会

・学習会「指導に難しい部分のある子へのはたらきかけ方と実践事例について」

講師：一瀬英史先生（山梨県総合教育センター研修主事）

（5）第5回研究会　授業研究①

・学級活動（2年）「あたたかい言葉を使おう」 授業者：植原恵子先生（塩山南小）

（6）第6回研究会　実践発表②

・低学年部会：古屋先生，志村（三富小）の実践発表

・高学年部会：佐野先生，志村先生(日川小)，雨宮先生(加納岩小)の実践発表

（７）第７回研究会　実践発表③

・低学年部会：三枝先生(塩山南小)，赤星先生(祝小)の実践発表

・高学年部会：那口先生(塩山南小)，高石先生(祝小)の実践発表

（８）第８回研究会

・研究授業案検討会

（９）第９回研究会　授業研究②

・学級活動(２年)「学級力を高めよう」　授業者：金井京子先生(大藤小)

（10）第１０回研究会　実践発表④

・低学年部会：池田先生(塩山南小)，岩下先生(大藤小)の実践発表

・高学年部会：廣瀬先生，中村先生(日下部小)の実践発表

・一年間の部会研究の総括

Ⅲ　成果と課題

１　成果

・「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てたい」そんな思いをもち，各学校・各学級で，児童の実態に合う指導が行われ，その実践を発表し合う中で研究が進められた。授業実践や実践発表は，児童の実態にもとづいた，工夫された取り組みを学ぶ機会となり，大変参考になった。

・一人ひとりの実践をみんなで考え合うことで、自分の学級の実践に対するたくさんのヒントが見つかった。他の先生方の実践に触れることは，とても勉強になりよかった。各校の実践レポートは，日常のさまざまな生活場面で活用できるものがあり，自校の実践に取り入れることができた。討議の中で，学級経営で悩んでいることなどが気軽に相談でき，とても有意義な時間をもつことができた。低学年・高学年に分かれて話し合ったことも，話し合いが深まりよかった。

・部会研究の主題(テーマ)にもとづいて，２本の授業が行われ，授業を通して，集団づくり・学級づくりについて学ぶことができた。どちらの授業も，それぞれの児童の実態を考慮した授業展開が工夫され，生き生きとした学習活動が展開された。主題(テーマ)に迫る実践的な研究ができた。

・夏季学習会では，講師の一瀬先生に，「指導に難しい部分のある児童・生徒への指導の在り方や，困難な事例に対する実践」を紹介していただいた。一瀬先生が実際に指導や対処をした事例を紹介していただいたので，細かい部分のお話もよくわかり，大変参考になった。

２　課題

・話し合い活動・グループエンカウンター・集会活動など，学級活動の実践がほとんどだった。教科・道徳・総合的な学習の時間でも，自治的な活動が仕組めるのではないか。さまざまな場面からのアプローチをしたい。

・低学年と高学年に分かれて研究することが多かったが，時として交流を図りたかった。

・各学級での取り組みの実践報告があり，参考になる点が多いが，共通した取り組みの視点とか重点などを設定し，より具体的に手だてを研究する方法も，効果的な研究になってよいのではないかと思う。

・どの学校もＱ－Ｕ検査を実施していると思うので，その結果をどう活用していくのか，具体的な支援をどうしていくのかを学習するのもよいのではないか。

・研究授業が２本とも同学年(２年生)になってしまった。異なった学年で研究授業を行うと，より研究の幅が広がり，深まっていくのではないか。

・毎年，課題にされていることでもあるが，授業者への負担が大きいように感じる。今年度は，２回の授業ともに授業案検討の機会がつくれたのはよかった。しかし，授業案検討の時点では学級の実態が見えないため，検討が難しい部分がある。

（部長　志村　克人）